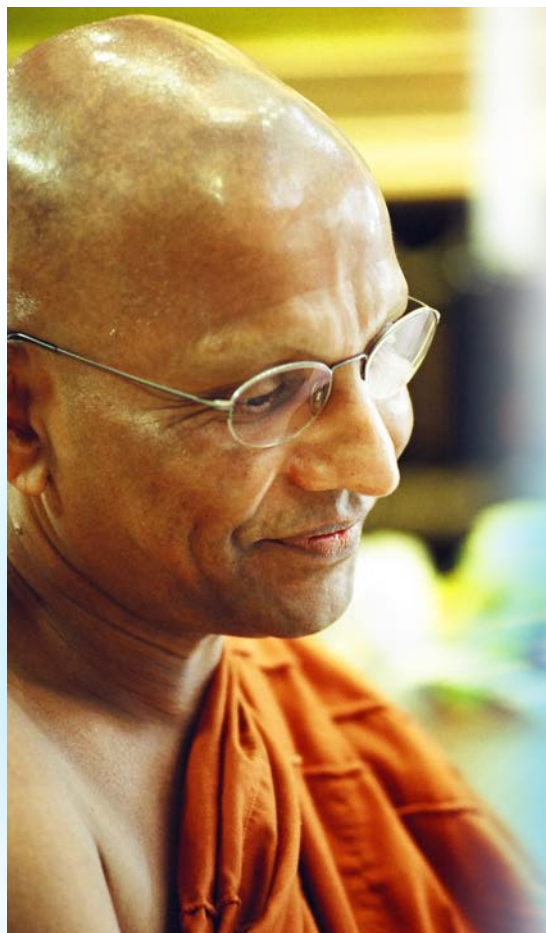




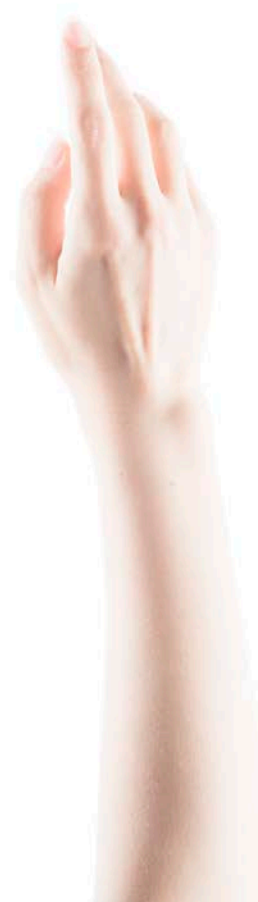
The 51st JPA Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science in Kanazawa
第51回日本薬剤師会学術大会 金沢

2018年 9月23日(日)・24日(月・祝) 石川県立音楽堂 ほか

記念
講演



身体
の
症
状
は
緩
和
、
こ
こ
ろ
の
病
は
完
治
。



人として、
薬剤師として。

【日時】9月24日(祝・月) 14:00～15:00 【会場】石川県立音楽堂 コンサートホール

【講師】アルボムッレ・スマナサーラ 長老 【座長】真宗大谷派 聖興寺 住職 ^{なかの} ^{まこと} 中野 素 師

仏教は身体を健康を維持しつつ、こころの病を完治させる教えです。お釈迦様が弟子たちに説かれた四聖諦の教えは、医療の世界の方法論と共通しています。第一の苦聖諦では「生老病死」など八つの苦を列挙します。これは病気の症状の診断です。次の苦集聖諦は渴愛という苦の原因を挙げます。これは病因の特定に当たります。三番目の苦滅聖諦とは病気が完治した状態＝涅槃です。これは治療目標です。そして四番目の苦滅道聖諦は、八正道として知られる処方箋です。ブッダはご自身を「この上のない医療者である」と自負されていました。今回の講演では、私たちの「こころの病」の正体、そしてその処方箋である「八つの薬」についてご紹介いたします。



アルボムッレ・スマナサーラ
(Alubomulle Sumanasara)

テーラワーダ仏教(上座仏教)長老。1945年4月スリランカ生まれ。13歳で出家得度。国立ケラニヤ大学で仏教哲学の教鞭をとる。1980年に国費留学生として来日。駒澤大学大学院博士課程を経て、現在は日本テーラワーダ仏教協会では仏教伝道と瞑想指導に従事する。他にNHK教育テレビ「心の時代」出演、朝日カルチャーセンター講師などを務める。『ブッダの幸福論』『無常の見方』『怒らないこと』(和文)『Freedom from Anger』(英文)など著書多数。